第1章 自分の聴力を通信しない！

「認知症」を引き寄せる！

難聴は「抑うつ」と
人間関係トラブル、学習意欲の低下も危険な兆候

ミネソタ大学で調べたところ、認知症になる可能性が高いということが知られています。難聴の人は、認知症になる可能性が高いということをわかりやすいです。その理由は、前ページで述べたように、脳への刺激が少なくなるからです。

コミュニケーション力も、同じように下がっています。会話が難しくなるせいで、言葉のニュアンスや相手の微妙な気持ちを汲み取ることができなくなります。そのため誤解や行き違いが増え、無用な混乱が生じます。その結果、聴力が下がって耳からの刺激が減ると、脳の活動も衰えてしまいます。

ネットワークが正常に働かなくなったり、学習力や記憶力が低下します。そうなると人と交流することも楽しくなくなり、家にひきこもりがちになります。さらに、家の中でも家族と行き違いが増え、部屋の中にこもっていってしまいます。そこで、聴覚のトラブルにも発展しがちです。

「聴覚のトラブル」は、従来の研究では、認知症や脳の低下をストップさせなくてはなりません。そうして刺激を取り戻すようにも、従来のコミュニケーションも、新しいことに挑戦する楽しそうに、薄れることはありません。しかし、そのために起きる聴覚の衰えに気付いて、進行を止めることも、それは人生最後の数十年を幸福にするために不可欠なケアなのであります。